

令和7年度 第53回 糟屋地区美術展

開 催 要 項

- 主 催 糟屋地区文化協会連合会
- 主 管 糟屋地区美術展実行委員会
- 共 催 糟屋地区社会教育振興会、篠栗町、篠栗町教育委員会
- 後 援 糟屋地区市町長協議会、糟屋地区議長協議会
糟屋地区市町教育委員会連絡協議会、
公益社団法人福岡県美術協会、西日本新聞社、

糟屋地区美術展実行委員会 事務局

〒811-2301 糟屋郡粕屋町上大隈55-1

糟屋郡自治会館内 3階 糟屋地区文化協会連合会

TEL : 092-938-0895

FAX : 092-938-0896

E-mail: rmatsui3486@gmail.com

ホームページ: 糟屋地区文化協会連合会

<http://kasuyabr.strippler.jp/>

開 催 要 項

1 趣 旨

地域社会のより豊かな発展と生涯学習推進が叫ばれている今日、糟屋地区住民の自己実現と生きがい、美術の普及向上に努め、ユニークな芸術文化の創造発展を図る。

2 名 称

令和7年度 第53回 糟屋地区美術展

3 会 期

令和7年11月18日（火曜日）～11月24日（月曜日）休館日無し
時間：10時～17時迄

4 会 場

展示会場： 篠栗町 「篠栗町 合併50周年記念体育館」
糟屋郡篠栗町中央4丁目18番16号
表彰式場： 篠栗町 「篠栗町 合併50周年記念体育館」

5 部門と規格

① 部門共通

特別の但し書きがある場合を除き、号数表示は作品の号数です。
規格外の作品及び主催者が公序良俗に反すると判断した作品は、受理しません。
出品時、同一又は類似作品を他の公募展に応募している作品は出品できません。
また、既発表の作品に新たな加筆、加工、修正、画像処理などを加えた作品も出品できません。
壁（パネル）に掛ける作品については、必ず掛紐をとりつけて下さい。また天地も明示下さい。
出品頂いた作品は、全点展示致します。なお、作品受け付け或いは受賞決定後に、開催要項に違反する事が判明した場合は、入賞の取り消し及び展示を外します。
★主催者は、善良な管理者の注意をもって作品を保管致しますが、天災その他の不可抗力や、不慮の事故等で損傷しても責任は負いません。また、仮縁、マット、アクリル板は作品保護のためのもので、移動等の過程で傷つくこともありますが、ご了承下さい。

② 日本画（水墨画・黒彩画を含む）

80号（145.5cm×145.5cm）以内、仮縁付（縁幅は7cm以内）
（作品保護のため画面より1cm以上縁が高いこと）
マット、ガラス、アクリル板は不可。
但し、水墨画、黒彩画はアクリル板の使用可。
軸装は縦210cm以内で、表装仕上がり面積が15,000cm²以内とする。

③ 洋画（油絵、水彩、素描、版画、パステル画、アクリル画）

80号（145.5cm×145.5cm）以内、仮縁付（縁幅は7cm以内。）

（作品保護のため画面より1cm以上縁が高いこと）

油彩以外は、マット及びアクリル板の使用可。

④ 陶芸

縦60cm×横60cm×高さ60cm以内。 重量15kg以内。

作品には、陶土・磁土・粘土以外の飾りがつけられた物は、工芸品と見なします。

（例：ランプシェードは、陶芸として出品される場合は、ランプ、コード等は外して下さい。）

⑤ 工芸・彫刻

種別をちぎり絵、押し花、パッチワーク等と具体的に明記のこと。また、花瓶付き造花のような作品の場合、自身で制作していない部材（額、仮縁、枠、作品ケースは除く）がある場合は、その部材を申込書に記載すること。

額装仕上げ（ガラスは不可、押し花はガラス可）80号（145.5cm×145.5cm）以内。

壁面利用の作品は幅200cm×高さ200cm以内、重量15kg以内。

屏風は182cm（6尺）以内。

立体物は200cm×170cm×200cm以内、重量70kg以内とし、十分安定した状態で移動及び展示が出来る作品とする。

⑥ 書

漢字、かな、調和体、篆刻、刻字及び前衛を問わない。

額・枠・パネル・軸装いずれも可とする。

額装はスチール製枠張りで、アクリル板の使用は可とするが、ガラスは不可とし、仕上がり寸法が次のとおりで、重量15kg以内。

【ア】 51cm(1.7尺)×182cm(6尺)以下、縦横自由、画仙紙は県展サイズまたは半切程度。

【イ】 91cm(3尺)×91cm(3尺)とする。

軸装は縦210cm以下で、表装仕上がり面積が15,000cm²以内とする。

篆刻は印影で、アクリル板付き額（縦39cm×横30cm）以内。

卷子本・帖は、仕上がり寸法が縦40cm、横220cm以内。

屏風の出品は不可。

書刻は、板横91cm（3尺）×縦61cm（2尺）程度。

審査時に釈文との照合をしますので、必ず釈文を提出して下さい。また、主催者の方で統一して作品の横に掲示しますので、印刷物もしくは判読しやすいように必ず楷書で書き、出品申込時に「出品申込書」と一緒に提出して下さい。釈文の記載例は、別紙を参照下さい。

⑦ 写真

単写真は、A-4以上全紙まで。

組み写真は、横75cm 縦100.0cm 厚さ3.5cm以内のタテ組（タテの展示）とする。1枚の作品画像は四つ切り以上とする。

単写真、組写真は、枠張りマット加工とする。（額の材質は問わない。またドライマウントは不可）

トリミング以外の削除、合成写真、著しい又は不自然な変形は不可。
雑誌、新聞、ホームページ等に掲載された作品は発表されたものと見なし不可。
また、写真の内容、構図、構成、色使いなどが既発表作品と酷似している場合も発表されたものとみなし不可。
肖像権、著作権の問題が生じないよう被写体となる人、所有者の同意を得て下さい。

⑧ デザイン (平面デザイン)

平面デザイン、グラフィックデザイン、ポスター、イラストレーション (コミックイラスト、キャラクターイラストを含む)

テーマ：自由な発想に基づいて制作した作品。

サイズ：B1版 (103cmX72.8cm以下。縦横自由)

木製パネルまたはフレームパネル (イレパネ、ラクパネ等)

のり付きスチレンパネルの場合はフレーム等を付けること。

平面として壁面展示が可能な作品

⑨ 出品資格

糟屋地区内 (古賀市及び糟屋郡内) の文化協会会員並びに糟屋地区内の居住者または糟屋地区内への通勤・通学者。(中学校卒業以上)

作品は、出品者本人が制作したもので、サークル・共同出品はできません。また公募展において未発表 (未入選・未入賞) のものに限りません。

6 賞

各部門で次の賞を贈ります。

福岡県知事賞 (洋画 部門のみ)、西日本新聞社賞 (写真 部門のみ)、
糟屋地区文化協会連合会賞、糟屋地区社会教育振興会賞、福岡県美術協会賞、
糟屋地区市町長協議会賞、糟屋地区議長協議会賞、糟屋地区教育長会賞、奨励賞
賞の審査は美術展実行委員会が委嘱した審査員がおこないます。

7 申込書 提出先と申込締め切り日

(1) 出品者は、各市町の文化協会が定めた締め切り日までに、「出品申込書」を提出して下さい。

須恵町文化協会の締め切り日は、令和7年9月2日 (火) です。

もし、各市町の文化協会が定めた締め切り日に間に合わなかった場合は、10月7日 (火) までに糟屋地区美術展実行委員会事務局まで「出品申込書」をFax、または郵送して下さい。(住所、電話番号、Fax番号等はこの開催要項表紙裏に記載してあります。)

(2) 各市町の文化協会は、出品者から提出された「出品申込書」と「部門別出品一覧」を、篠栗町文化協会事務局と糟屋地区美術展実行委員会事務局に提出してください。

8 出品点数

各部門とも一人1点とします。複数部門の出品も可とします。

9 出品料

1点につき1,500円です。受付文化協会に納入下さい。

★受付後の出品料は返金できません。作品搬入

11月17日（月曜日）10時から受け付け、11時30分までに受付を完了して下さい。搬入時、受付で「作品預かり票」を受け取って下さい。

文化協会に搬入・搬出を依頼される場合は、申込時に当該文化協会と打ち合わせて下さい。

11 審査会

11月17日（月曜日）12時30分～14時30分

12 審査発表

11月18日（火曜日）入賞者及び表彰式について各市町の文化協会から入賞者に通知します。

13 表彰式

11月22日（土曜日）13時30分から
篠栗町 「篠栗町 合併50周年記念体育館」で行います。

14 審査委員による作品講評会（ギャラリートーク）

表彰式終了後、作品展示場（篠栗町 「篠栗町 合併50周年記念体育館」）で行います。それぞれの作品について審査員から講評をして頂きますのでご出席下さい。

15 作品搬出

11月25日（火曜日）10時～12時の間に搬出して下さい。搬出時は、「作品預かり票」と引き換えの上搬出して下さい。

16 著作権

作品の著作権は、出品者に所属します。

著作権や肖像権等の問題が生じた場合は、出品者が対応するものとし、主催者は責任を負いません。

作品は、糟屋地区文化協会連合会及び所属文化協会のホームページ、広報誌、図録、映像等で作者名を含めて発表、掲載及び広報のため報道機関に掲載を掲載することができるものとします。また、取材やその他必要と認めた場合は入賞・入選者の氏名・住所・電話番号等の情報を提供できるものとします。この他の目的で出品者の個人情報を提供することはありません。

例一

度梅嶺

作詩者

張

衍懿

拔起危峯萬仞雄

勢臨百粵控南中

人從丹壁千盤上

路入青天一箭通

古碣尚留唐相迹

荒祠誰祀越王功

只今四海梯航日

早見征車度曉風

別弟縉後登青龍寺望藍田山

作詩者

王維

弟縉に別れて後青龍寺に登り藍田山を望む

作詩者 王維

陌上新離別 蒼茫四郊晦

陌上 新たに離別し蒼茫として四郊晦し

登高不見君 故山復雲外

高きに登るも君を見ず 故山も復雲外

遠樹蔽行人 長天隱秋塞

遠樹 行人を蔽い 長天 秋塞に隠たり

心悲宦遊子 何處飛征蓋

心悲しむ宦遊の子 何れの処にか征蓋飛ぶ